

2026年10月22日

生物多様性に関する講演会（北海道会場）

～自然の価値が見える化し、地域の未来につなげる～
自然共生サイトが生み出す連携と地域づくり

北海道大学が自然共生サイトに取り組むワケ ー大学運営と自然共生サイトー



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

サステナビリティ推進機構
キャンパスマネジメント部門

（兼務）広報・社会連携本部 社会連携部門

特任准教授 北岡 真吾



1 北海道大学の自然共生サイト
～雨龍研究林・札幌キャンパス～

2 北海道大学が取り組むワケ
～北海道大学の特徴・ビジョン～

3 北海道大学の連携・協働
～自然共生サイト認定はスタート地点～

**4 自然共生サイトは
生物多様性 × ●●●**

1 北海道大学の自然共生サイト

～雨龍研究林・札幌キャンパス～

2 北海道大学が取り組むワケ

～北海道大学の特徴・ビジョン～

3 北海道大学の連携・協働

～自然共生サイト認定はスタート地点～

4 自然共生サイトは 生物多様性 × ●●●

- 2022年4月 「生物多様性のための30by30アライアンス」 設立
- 2022年6月 「生物多様性のための30by30アライアンス」 参加
- 2022年9月～
2023年1月 雨龍研究林 を対象に
環境省の認定実証事業（試行後期）参加▶ 認定相当
- 2023年10月 雨龍研究林 自然共生サイト認定
- 2024年3月 札幌キャンパス 自然共生サイト認定
- 2024年8月 雨龍研究林・札幌キャンパス
OECD国際データベース登録
- 2025年9月 札幌キャンパス
地域生物多様性増進法に基づく増進活動実施計画認定



自然共生サイト 「北海道大学雨龍研究林」 (認定日：2023年10月25日)

天然生針広混交林を中心に多様な林相をもつ大面積の研究林
天然林が優占（90%以上）、自然度の高い河川や湿地も



雨龍研究林全域 24,953ha

鳥獣保護区との重複を除いた24,170haが
OECM国際データベース登録（2024年8月）

自然共生サイト認定面積・OECM登録面積
現時点で我が国最大

原生的な自然生態系が存する場

希少な動植物種が生息生育している場

あるいは生息生育している可能性が高い場

既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、

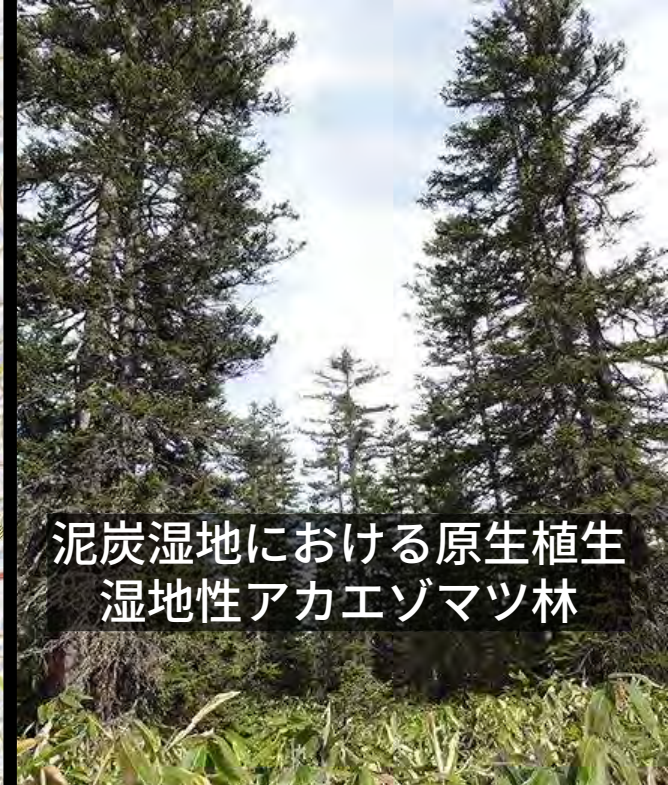
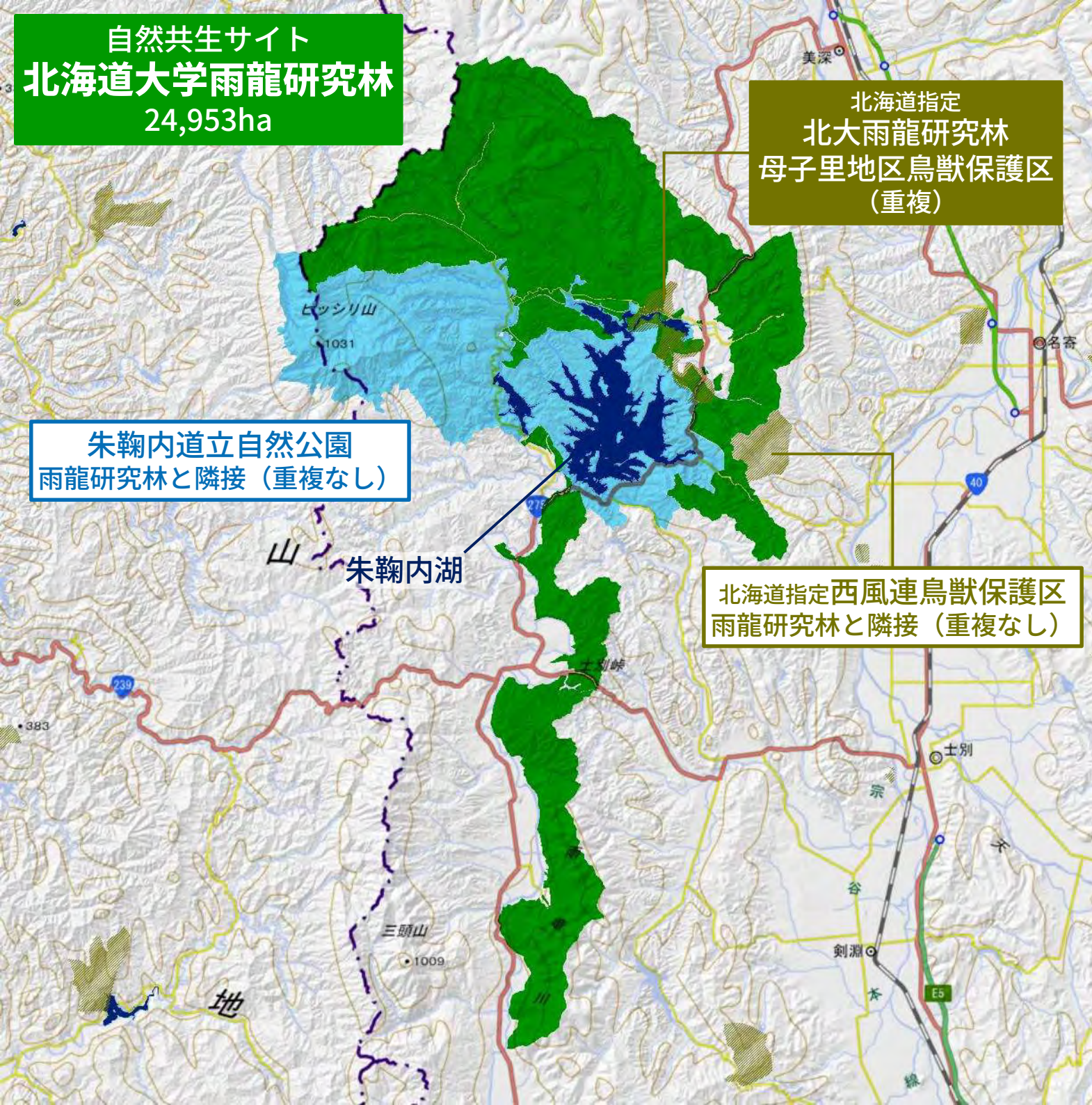
緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

自然共生サイト
北海道大学雨龍研究林
24,953ha

北海道指定
北大雨龍研究林
母子里地区鳥獣保護区
(重複)

朱鞠内道立自然公園
雨龍研究林と隣接 (重複なし)

北海道指定西風連鳥獣保護区
雨龍研究林と隣接 (重複なし)



泥炭湿地における原生植生
湿地性アカエゾマツ林



イトウ (絶滅危惧IB類)
撮影:菅野陽一郎氏 (コロラド州立大学)

長期モニタリング



木のたね隊

小学生向け野外プログラム

森林圏ステーション長期計画・森林管理指針に基づく活動



人為的に土砂崩れを起こし、生態系の修復過程や多機能性を活用した防災減災（Eco-DRR）について研究



氾濫原を復元・維持しながら、林道も守るための近自然工法による取り組み



自然共生サイト 「北海道大学札幌キャンパス」 （認定日：2024年3月18日）

札幌都心部に位置する大学の中核キャンパス
開拓前の面影を残す豊かな緑・生態系

キャンパス敷地177haから
工作物が集積している
範囲を除いた区域

126ha

認定区域全体が
OECM国際データベース登録
(2024年8月)

2025年9月16日

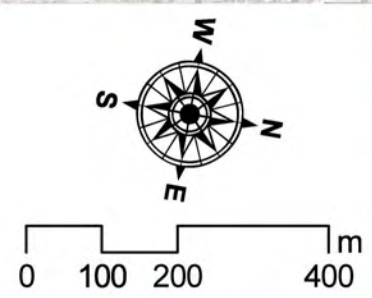
地域生物多様性増進法に基づく増進活動実施計画の認定

生態系サービスの提供の場であって、
在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

希少な動植物種が生息生育している場
あるいは生息生育している可能性が高い場

自然共生サイト 「北海道大学札幌キャンパス」 (認定日：2024年3月18日)

航空写真 2019年9月撮影
Copyright© エヌ・ティ・ティ・インフラネット All Rights Reserved.



桑園駅

函館本線

	札幌キャンパス敷地	177ha
	自然共生サイト認定・ WD-OECM 登録区域	126ha

札幌駅

北12条駅

北18条駅

札幌市営地下鉄南北線

北24条駅

中央ローン・サクシュコトニ川

農場

キャンパスの中の多様な緑地

日常的な学術研究や自然環境教育の場／キャンパスのアイデンティティ／札幌都心部の貴重な自然環境・都市生態系

恵迪の森

エルムの森（農学部・理学部ローン）

モデルバーン

ポプラ並木

大野池

イチョウ並木

生物相調査等で生育・生息が確認された動植物の種数（2025年3月時点）

植物

950 種

哺乳類

19 種

鳥類

143 種

両生爬虫類

4 種

魚類

6 種

昆虫

2,156 種

3,000 種超

希少種を含む多様な動植物が生息・生育



クゲヌマラン



オオウバユリ



オオバナノエンレイソウ



キバナノアマナ



エゾリス



オシドリ



エゾサンショウウオ



サクラマス

撮影：中村慎吾氏



ある休日午後の中央ローン



近隣の保育施設の
こどもたち



オシドリを撮りたい



測量実習中



観光客



修学旅行生

学生・教職員だけでなく、多くの市民や観光客が緑地を利用

0 100 200 400 m

HOKKAIDO UNIVERSITY
CAMPUS MASTER PLAN

→1996→2004→2027→

緑地・生態系

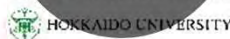
の保全・活用に関する方針

大学の施設整備の基本計画

キャンパスマスタープラン

改訂中

北海道大学キャンパスマスタープラン2018



キャンパスマスタープランに基づく
緑地の持続的な保全と管理についての一体的な方針

生態環境保全管理方針

生態保全緑地
景観維持緑地

教育研究利用緑地
生態保全緑地と景観維持緑地以外の
非建蔽・未舗装地

生物相調査
モニタリング

外来種の防除

希少種・在来種の保全

教職員・学生による活動 学外の協力者との連携も

申請・認定を可能としたポイント

データ・情報の蓄積があり、
モニタリングを見据えた **活動体制・しくみ** があること

大学の掲げる

目標・ビジョンとの親和性 を意識して
大学全体の取り組み に位置づけたこと

➡ 大学執行部の理解・後押し

1 **北海道大学の自然共生サイト**
～雨龍研究林・札幌キャンパス～

2 **北海道大学が取り組むワケ**
～北海道大学の特徴・ビジョン～

3 **北海道大学の連携・協働**
～自然共生サイト認定はスタート地点～

4 自然共生サイトは
生物多様性 × ●●●



150th

HOKKAIDO UNIVERSITY

1876

札幌農学校として開校

2026

創基150年

北海道大学は

創基 **150年**

を迎えました

国立大学最多の学部・大学院数

2026.8.1現在

12 学部



文学部



教育学部



法学部



経済学部



理学部



医学部



歯学部



薬学部



工学部



農学部



獣医学部



水産学部

21 学院等



法学研究科



水産科学院



環境科学院/地球



理学院/研究院



農学院/研究院



生命科学院/先端



教育学院/研究院

幅広い教育・研究領域をカバーする総合大学



国際広報/イ・ア・
観光学院/イ・ア・
コミュニケーション研究院



保健科学院
/研究院



工学院/研究院



総合化学院



経済学院/研究院



医学院/研究院



歯学院/研究院



獣医学院/研究院



医理工学院



国際感染症学院



国際食資源学院



文学院/研究院



情報科学院/
研究院



公共政策学教育部
/連携研究部



札幌キャンパス



植物園





天塩研究林



中川研究林



雨龍研究林



苫小牧研究林



檜山研究林



和歌山研究林

教育・研究を支える 広大かつ多様なキャンパス・附属施設

総面積 約 **70,000 ha** ▶ 国土の約 **0.2 %**



札幌研究林沿路試験地



室蘭研究林沿路試験地



洞爺研究林沿路試験地



厚岸臨海実験所



室蘭臨海実験所



洞爺臨湖実験所



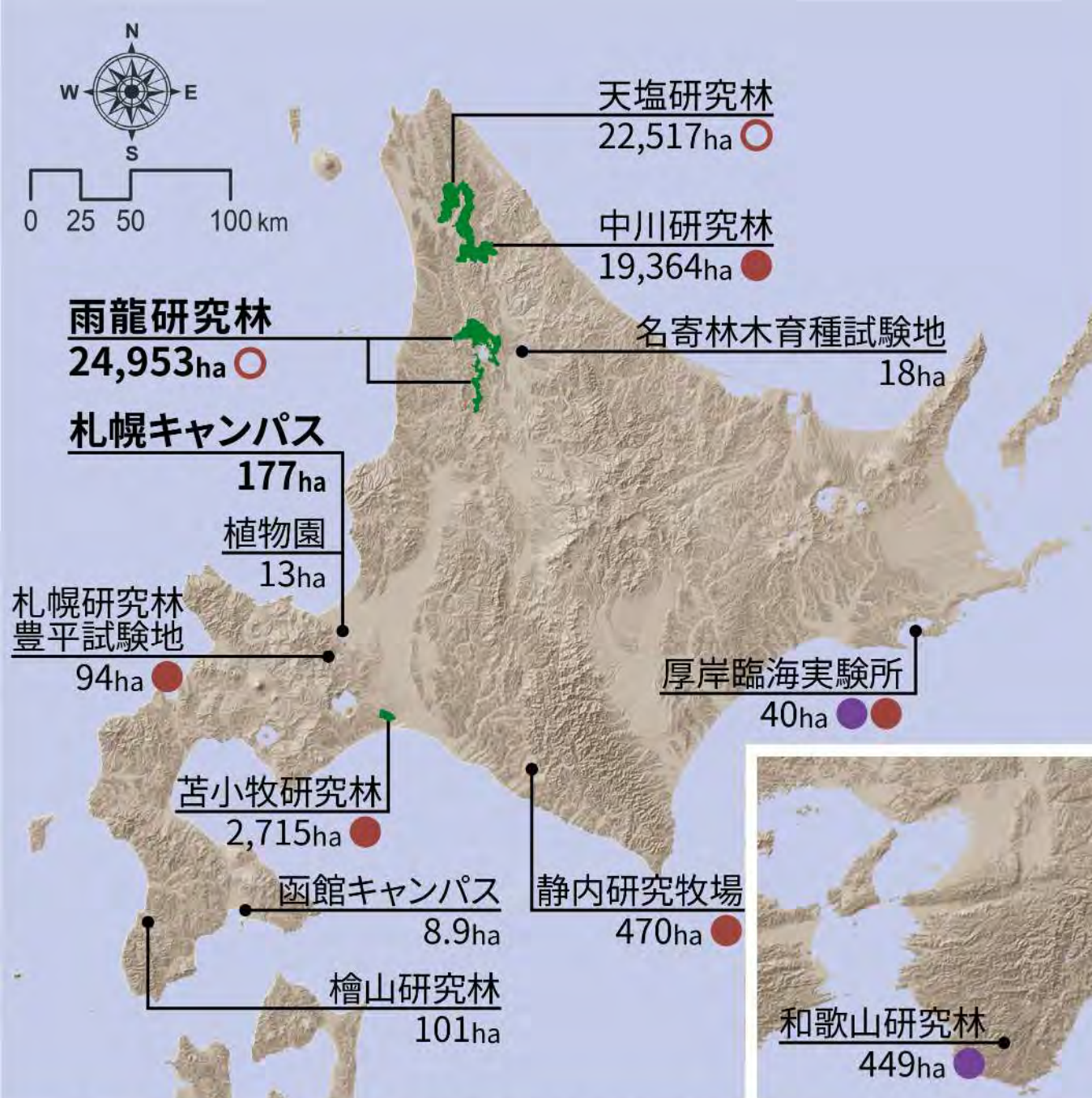
白尻水産実験所



七飯淡水実験所



静内研究牧場



凡 例

- 全域が自然公園区域と重複
- (ほぼ) 全域が鳥獣保護区と重複
- 一部が鳥獣保護区と重複

OECM

約25,000 ha

北海道大学
敷地総面積

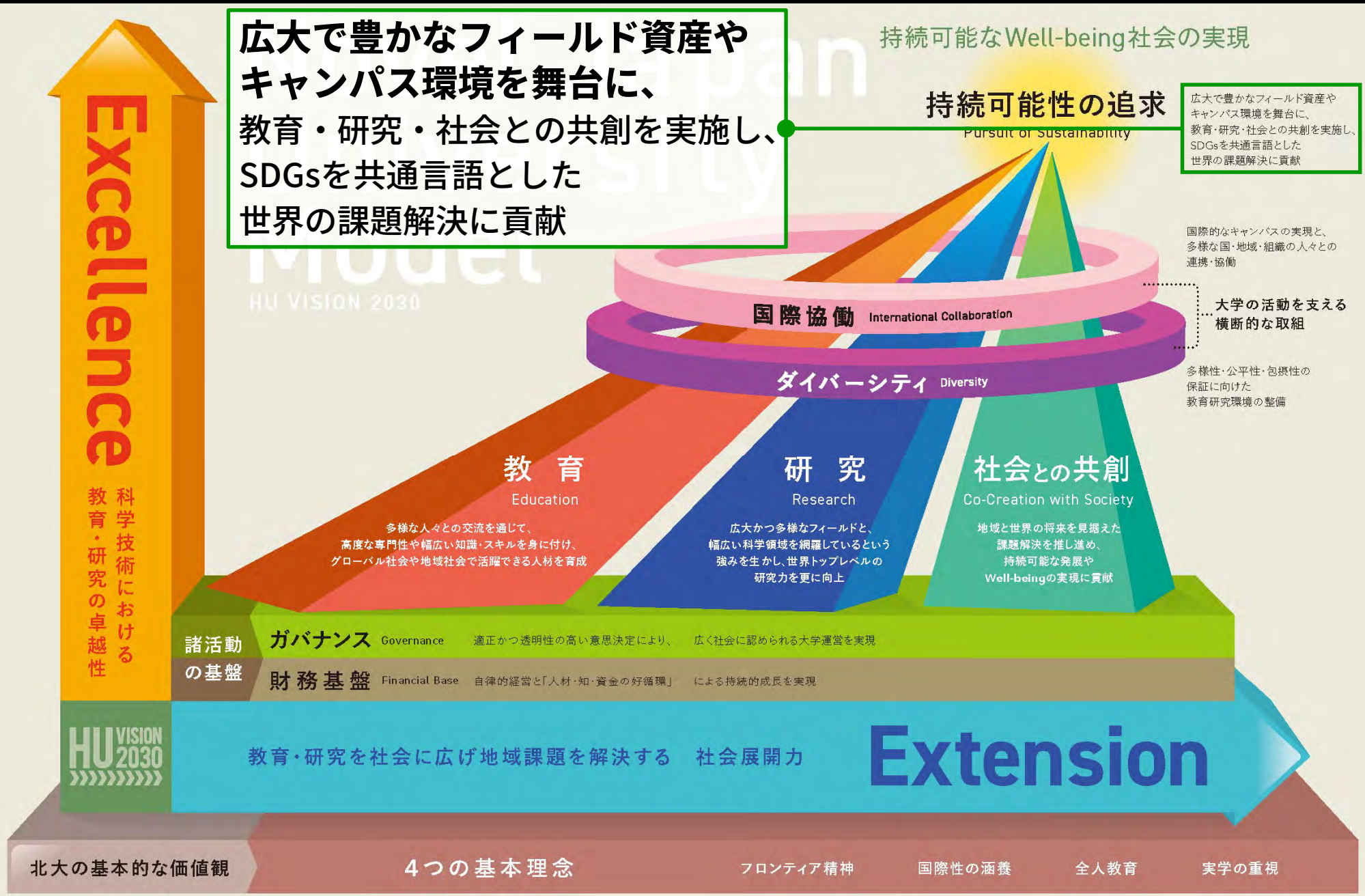
約70,000 ha

保護地域

約24,000 ha

天塩研究林	北大天塩研究林鳥獣保護区 (323ha)
中川研究林	北大中川研究林鳥獣保護区
雨龍研究林	北大雨龍研究林母子里地区鳥獣保護区 (698ha)
札幌研究林 豊平試験地	北大簾舞鳥獣保護区 北大一の沢鳥獣保護区
苫小牧研究林	北大苫小牧研究林鳥獣保護区
和歌山研究林	古座川県立自然公園
静内研究牧場	旧新冠種畜牧場鳥獣保護区
厚岸臨海実験所	厚岸霧多布昆布森国定公園 厚岸鳥獣保護区

持続可能なWell-being社会の実現



HU VISION 2030の目指すもの

ExcellenceとExtensionの好循環・エコシステムの創成

社会(地域・世界)

大学が社会にとってなくてはならない存在であり続けるために

北海道大学

経営資源

価値創造の源泉となる資本

歴史

- ・150年に及ぶ歴史
- ・国立大学としての知の蓄積

風土

- ・広大な北海道をフィールドとした実学
- ・世界最大規模の研究林と海洋研究

学知

- ・国立大学最多の学部数
- ・先端のトップレベルの研究・教育

人材

- ・多様な人材による独創的・革新的な活動
- ・幅広い視野を持つ国際的・社会的活動

場

- ・国際的キャンパスの形成
- ・学際的研究環境の整備

Excellence

目指す大学像
Novel Japan
University
Model

ネイチャーポジティブ 30by30 自然共生サイト
親和性高い???

HU
VISION
2030

Extension

教育・研究を社会に広げ
地域課題を解決する社会展開力

地球・社会・人間に関する、
教育・研究・社会共創この3つから生まれる
持続可能なWell-being社会の実現

持続可能性の追求
Pursuit of Sustainability

社会実装

地球・
世界の
課題解決

さまざまな課題

- ・少子高齢化
- ・地球温暖化
- ・エネルギー、
食料問題
- ・民族対立 など

社会との連携強化

北海道大学の**特徴・強み**

知的資産

幅広い研究領域を擁する総合大学
長年の成果・技術の蓄積、人材

物的資産

日本の国土の約0.2%に相当する
広大で多様なキャンパス・附属施設

知的資産・物的資産の両面から貢献し得る研究機関

所有者・管理者としての社会的責務

自然関連データの利活用
モニタリングの支援
科学的知見の収集・提供

保護地域
約24,000ha

**自主的・
積極的な行動**

自然共生サイト認定

WD-OECM登録

30by30目標に向け
**大学に
期待される役割**

『30by30ロードマップ』

後押しする施策への貢献

面積30%確保への貢献・保全

教職員・学生の協働で30by30目標・ネイチャーポジティブ実現への貢献

調整・申請過程でこんなやりとりがありました

サイト認定を受けると

教育・研究・大学運営に **規制や制約** が加わる？

- ➡ 新たな規制・制約は生じない
- ➡ 既に運用しているルールの継続

限られた人的・金銭的リソース…

申請やモニタリングなど **過度の負担** にならない？

- ➡ 負担を分散する役割分担
- ➡ 負担を考慮した申請項目・内容
モニタリングの要求レベルには懸念…

大学運営・現場にとっての

メリット／デメリット、インセンティブ は？

- ➡ 取り組まないことのリスクを回避
- ➡ 将来的なメリット・インセンティブの獲得
さらなるExcellence・Extensionのきっかけ

THE Sustainability Impact Ratings



イギリスの高等教育専門誌

Times **H**igher **E**ducation による

大学の社会貢献度を

SDGsの枠組みで評価する国際的な評価制度

2026年

総合ランキング対象の世界1603大学中

世界7位・7年連続 国内1位



国内1位・世界同率41位

都市・地域社会の持続可能性に関する研究
文化・歴史・自然資源の保存と地域への公開
持続可能な交通、住環境、キャンパス整備、自治体との連携



5年連続 国内1位・世界同率18位

約70,000haの森林資源を活用した実地教育と長期研究
雨龍研究林・札幌キャンパスへの国際的評価
絶滅危惧種の保全と生態系の再生

CDP気候変動質問書 への回答（日本の大学として初）



イギリスの国際環境NGOが運営
企業・公的組織などが環境影響を管理するための
グローバルな情報開示システム
回答書データは、投資家へ判断材料として提供
環境・社会分野の様々な国際枠組みと連携

2022～2025年版まで4年連続で

Bランク（マネジメントレベル） を獲得（自主回答）

研究教育・大学間連携の推進というアカデミズムとしての貢献のみならず、

大学という経営体としても カーボンニュートラルの取組が重要

取り組みの可視化と課題の発見

オファーをグローバルに呼び込む契機、寄付の増加への期待

世界中の機関投資家・購買企業・イニシアチブの要請に同時に応える

2024年版より

生物多様性モジュールへの回答も



北海道大学の 自然共生サイトの取り組み

客観的な認定・登録をもって **価値を見える化** し
価値・可能性を再認識 するきっかけ

**社会的インパクト向上・
大学運営基盤強化** の機会

ネイチャーポジティブ／ネット・ゼロ／サーキュラーエコノミーの
同時達成に向けた **統合的なサステナビリティ** の推進

1 北海道大学の自然共生サイト
～雨龍研究林・札幌キャンパス～

2 北海道大学が取り組むワケ
～北海道大学の特徴・ビジョン～

3 北海道大学の連携・協働
～自然共生サイト認定はスタート地点～

**4 自然共生サイトは
生物多様性 × ●●●**

自治体とのつながり | 札幌キャンパス生き物観察会（札幌市主催）

札幌市



生物多様性 さっぽろビジョン

（2024年3月改定）

自然共生サイト

認定件数 **5 件**

2030年目標の一つ



「自然共生サイトの普及啓発事業」 運營業務

市民が自然共生サイトへの関心と理解を
深めることを目的として、札幌市内の
自然共生サイト内での観察会を
含む普及啓発活動を行うもの

場所を貸すだけではもったいない
解説などに教員が参画

目標達成に
貢献

札幌キャンパスでの
観察会開催の打診

企画運営に
協力

北海道大学

札幌キャンパス
自然共生サイト認定
（2024年3月認定）



サステナビリティ推進機構
キャンパスマネジメント部門
生態環境マネジメントWG

施設部 環境配慮促進課

広報・社会連携本部

キャンパスのひらき方・自治体連携も
考えるきっかけにならないか？

自治体とのつながり | 札幌キャンパス生き物観察会（札幌市主催）

**今年度も連携して
イベント
開催予定です！**

2026年11月15日（日）

2025年9月20日（土）9:00～11:30

参加者27名（札幌市民）

市民が自然共生サイトへの関心と理解を深めることを
目的とした札幌市の普及啓発事業の一環

企画・運営に本学教職員も参画

本学教員による解説も

環境省
Ministry of the Environment
証明書番号251-001

自然共生サイトに係る支援証明書

株式会社北洋銀行 様

支援サイト情報

サイト名称: 北海道大学札幌キャンパス
サイト所在地: 北海道札幌市
サイト責任者: 国立大学法人北海道大学

☒ 維持タイプ ☐ 回復タイプ ☐ 創出タイプ

支援内容に係る情報

支援数: 1つ ※複数支援の場合、2枚目以降に記載

支援に係る活動内容

インフラ: ほか一基金にて北海道大学狩猟同好会カリブへ助成 200,000円

アクティビティ: アライグマ捕獲活動に使用する調査用トラップカメラ3台購入、アライグマ捕獲活動のためのエググトラップ・カメラの購入、捕獲から処分

実施期間: 2023年4月～2023年12月、2024年4月～2025年2月

インフラとアクティビティの連携

インフラとアクティビティの連携を図ることで、自然共生サイトの保全・向上を図ることを目指しています。

※別紙に記載の内容は申請者による任意の記載であり、環境省による詳細の審査は行われていない

(別紙)

環境省
Ministry of the Environment
証明書番号251-001

自然共生サイトに係る支援証明書

株式会社北洋銀行 様

特記事項

・北洋銀行では2010年度に「ほくくー基金」を設立し、北海道の希少種保護を中心とした生物多様性保全に取り組み動物園や活動団体を公募により支援しています。当基金では、2025年度までに延べ204件1億6000万円の寄付・助成を行いました。助成先の選定については、官民連携の「ほくくー基金運営協議会」を設置し、透明性・公平性・専門性の確保に努めています。助成は、ほくくー基金をはじめお客さまへの各種ソリューション提供を主とする本行・ポジティブ支援を通じたリスクの低減を行ってまいります。

【参考】
官民連携推進への取り組み・環境保全への取り組み「サステナビリティ」北洋銀行

※別紙に記載の内容は申請者による任意の記載であり、環境省による詳細の審査は行われていない

北大キャンパスにおける外来種防除活動への支援

申請者情報 | 株式会社北洋銀行

支援先 | 北海道大学札幌キャンパス

支援期間 | 2023年4月～2025年2月

活動概要 北海道大学札幌キャンパスにおけるアライグマ捕獲活動への金銭的支援

支援の目的

北洋銀行で2010年に設立したほくくー基金（北海道生物多様性保全助成制度）より、北大札幌キャンパスにてアライグマ捕獲活動を行う「北海道大学狩猟同好会カリブ」へ金銭的支援を行いました。この活動によりサイト内の生態系が保たれ、北海道の観光資源にプラスとなり、北海道経済の発展につながることを期待しています。

支援の成果

助成金はトレイルカメラ・捕獲機の購入や活動費用に使用し、2023年度は1頭、2024年度は4頭のアライグマを捕獲しました。また、侵入経路・痕跡の調査を行いました。その他、シカの解体練習や・狩猟免許取得のための勉強会などを行い、会員の技能上達および知識の習得を目指しました。



学生団体北海道大学狩猟同好会カリブの
札幌キャンパス内での外来種防除活動への支援
に対し証明書発行（2025年11月7日）

金融機関としては全国初の証明書取得

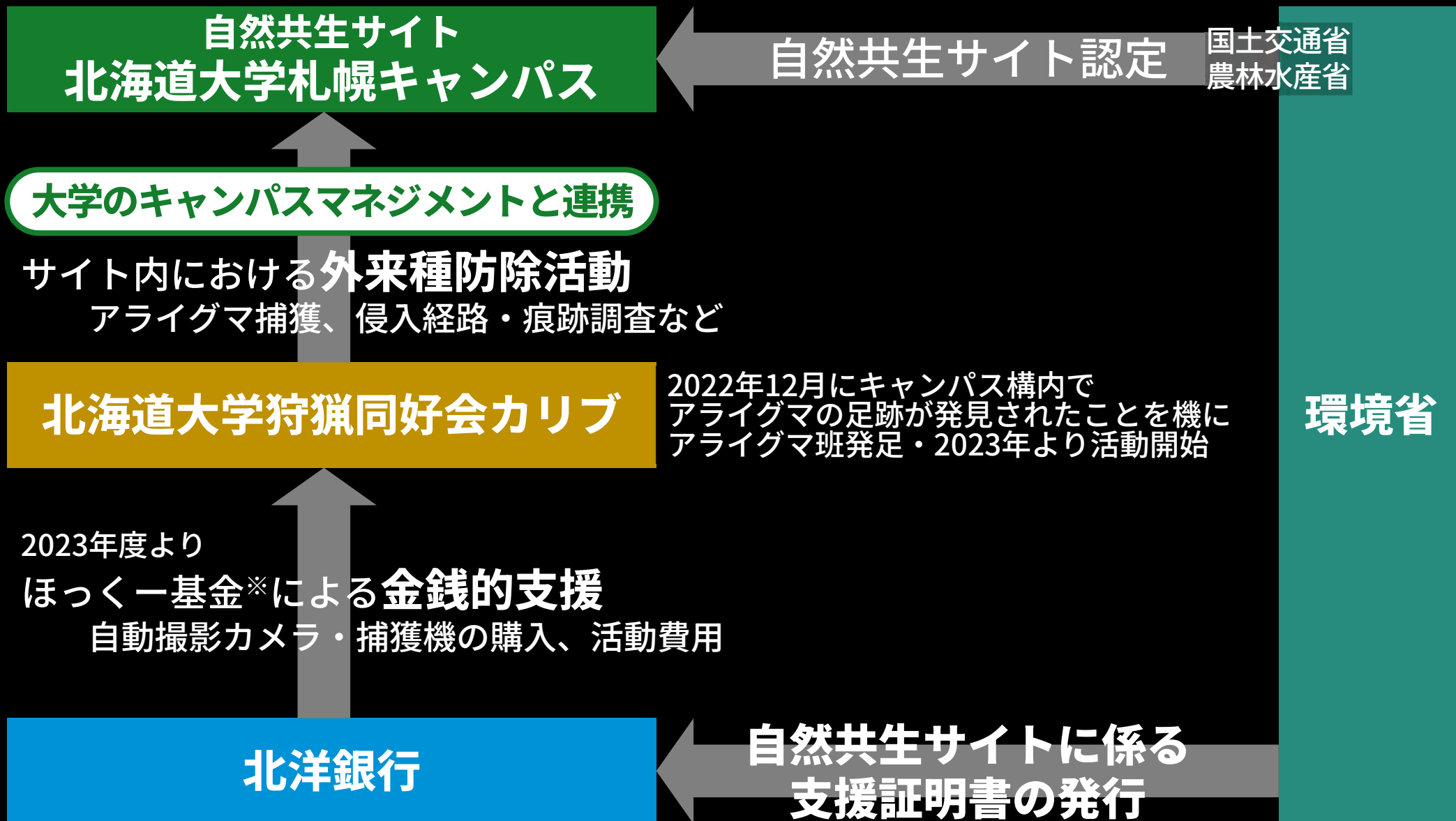
TNFDに基づく情報開示、
投資家向けIR資料として証明書を活用

北海道大学
札幌キャンパス

×

北洋銀行

学生団体



※北海道の生物多様性保全を目的として道内の希少種保護や生息環境整備等に取り組む様々な団体を幅広く支援する助成制度

つながりを増やす機会の拡大 | 環境省支援マッチング制度

サイト名称 | 北海道大学雨龍研究林
法人・団体名 | 国立大学法人北海道大学

希望する支援の種類

- 金銭的支援
- 物的支援

支援者向けコメント

雨龍研究林は北海道大学が所有する研究林のうち最古にして最寒の森であり、面積は約25,000haに及びます。朱鞠内湖を囲む研究林北部には、北海道の代表的な森林タイプである針広混交林が分布しています。一方南部は、蛇紋岩地帯に成立するアカエゾマツの純林が比較的大きな面積を占めています。

雨龍研究林では、天然林を中心とした広大で豊かな森林を活かした教育・研究活動を行っています。「朱鞠内湖とその流域を中心とした環境変化と生物多様性保全の長期総合研究」という大テーマのもと、長期・大規模な野外試験やモニタリングを行い、森林生態系の諸機能や生物多様性の維持機構を明らかにするとともに、それらを考慮した北方森林景観の管理方法を検討しています。また、生態系の機能と保全、地域社会との関係を総合的に研究できるフィールドであることを最大限に活用して、専門分野を横断した多彩な共同研究を実施しています。

森林生態系を守りつつ、森林に関わる研究・教育を学内外・国内外・地域に展開する取り組みを、多くの方とともに推進する契機にしたいと考えています。

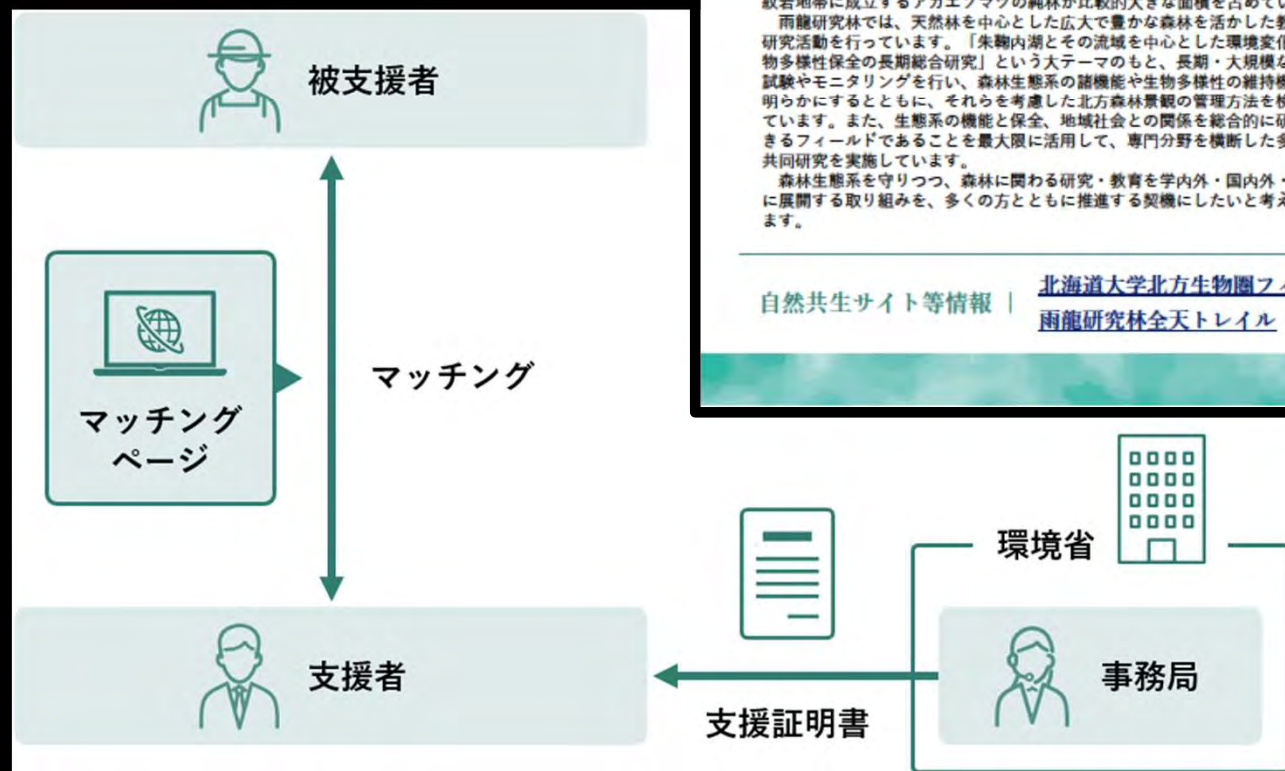
希望する支援の具体的な内容

研究林内における生物多様性観測体制の基盤となる林道の路網維持のための金銭的支援、物的支援（砂利などの資材類、林業機械など）



自然共生サイト等情報 |

[北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション雨龍研究林](#)
[雨龍研究林全天トレイル](#)



つながりを増やす機会の拡大 | 環境省支援マッチング制度

マッチングイベントで PRプレゼン



北海道大学

環境省支援マッチングイベント「地域と企業の自然共生マッチング会」
2025年10月27日

北の森から持続可能性の 輪を広げる

北海道大学
北方生物圏フィールド科学センター
雨龍研究林 助教 笠田実



雨龍研究林について

サイト名称：北海道大学雨龍研究林
法人・団体名：国立大学法人北海道大学

自然共生サイトとしての強み

- ・天然林を中心とした広大で豊かな森林
- ・専門的な職員

支援を必要としている点

- ・管理の広さに対する人数の不足（10~15人/25,000ha）
- ・林道などの森林整備に関わる資材と機械の不足



大切にしていること

- ・森林学、生態学の天然の実験施設であるということ
- ・持続可能な森林利用の実践の場であること
- ・研究林の周囲の環境で暮らす人々のWell-beingについて（地域連携）



自然に配慮しながら、どのように人間が森林を
活用できるかについて真剣に取り組んでいます



より良い人と自然の未来へ向けて

合同調査、保全プロジェクト、共同研究

潜在的なご支援の形（例）

- ・支援企業の名前を冠した森を作って、その森の毎木調査をサポートしてもらう
- ・ブトカマベツ川の橋や林道への資材提供
- ・重機や機材の貸し出し（脱炭素・カーボンニュートラルの視点からの実証的な支援や共同研究、**GX建設機械**）
- ・土砂崩れ研究の維持管理への参加



- ・原生的な自然環境のモニタリングや生物多様性保全につなげる調査研究の実施が可能になる・幅が広がる
- ・カーボンニュートラルの観点からの温暖化対策

支援してください！だけではもったいない
新しい価値・価値観をいっしょにつくりませんか？

1 北海道大学の自然共生サイト
～雨龍研究林・札幌キャンパス～

2 北海道大学が取り組むワケ
～北海道大学の特徴・ビジョン～

3 北海道大学の連携・協働
～自然共生サイト認定はスタート地点～

**4 自然共生サイトは
生物多様性 × ●●●**

北海道大学の 自然共生サイト認定・OECM登録

大学の特徴・強みを活かした
30by30目標への貢献を通じて
ネイチャーポジティブの実現を目指すもの

都市・地域を構成する
大学のキャンパス・附属施設が
多様な主体と新しい価値・価値観を
共に創り出す場・機会となるための**手段**

価値の
見える化
再認識

価値の
創出
最大化

認定・登録が最終目的ではない

北海道大学の 自然共生サイト認定・OECM登録

社会的インパクト向上・

大学運営基盤強化 の機会

大学キャンパス・附属施設の生物多様性の価値の維持・向上



共創 を促す 多様な主体の受け皿 に

自然共生サイトは…

これまでとは異なる組織・人の **受け皿**

各々の暮らしや仕事と生物多様性との関係を想像・実感

より多くの人
生物多様性を自分ごと化する
きっかけを提供する



実体験する機会に恵まれなかった人
サイトをもたない／もてない組織…

自然共生サイトは…

これまでとは異なる組織・人の**受け皿**

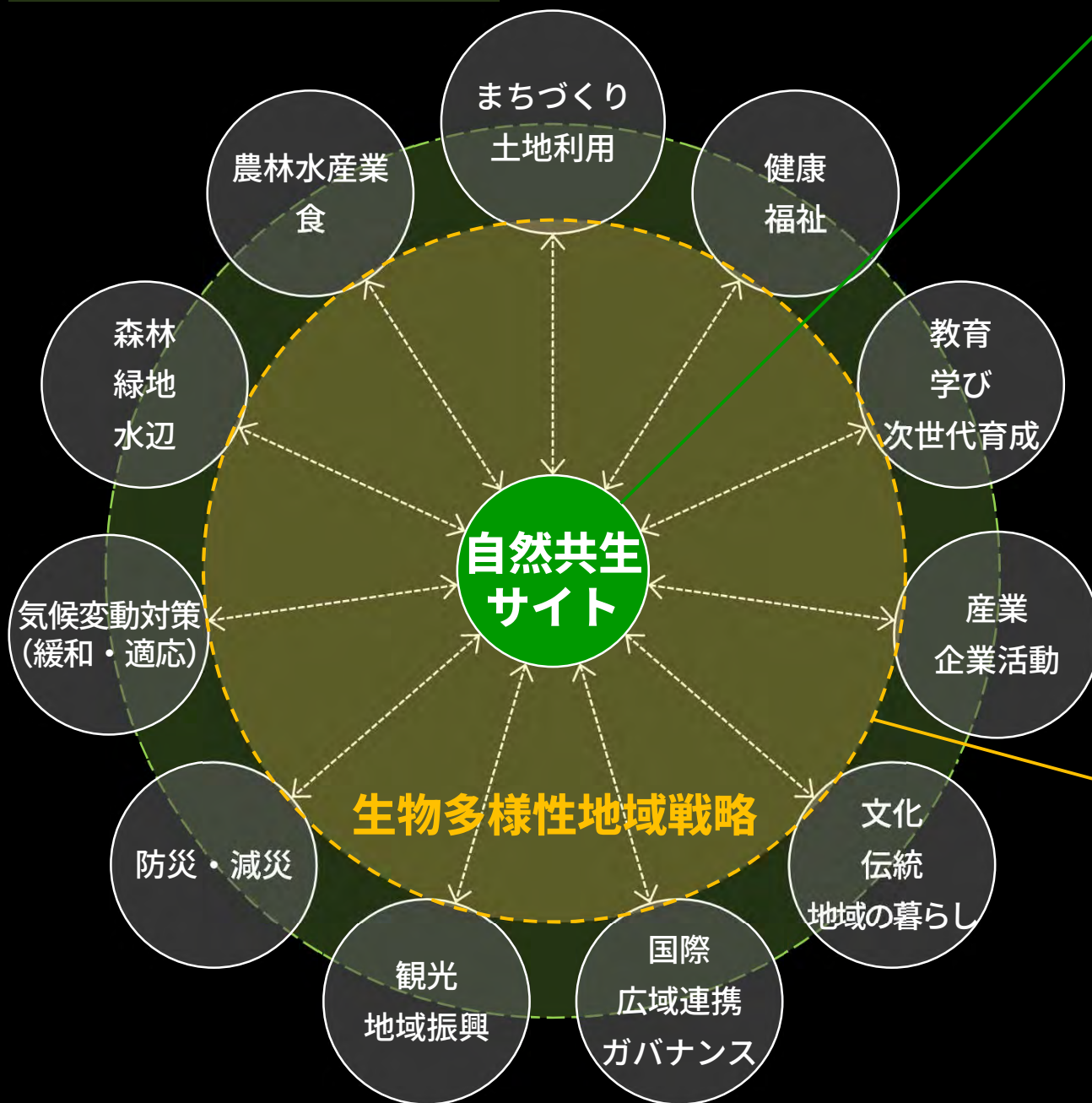
多様な主体が
好きなこと・得意なことを
持ちよって 活動する

活動の幅を広げる、関わる人の負担感を軽くする…

▶ 活動の持続性

生物多様性

地域の経済・社会・暮らしの基盤



実践の場

生物多様性の保全・回復

(重要な生息・生育地の確保)

OECDとして30by30に貢献

(保護地域との連携・面的な保全)

地域の取組の見える化・発信

(企業・民間等の取組を促進)

地域の連携・協働の拠点

(多様な主体の参画・学び・交流の場)

生物多様性 × ●●●

地域の自然資本を活用した
相乗効果による課題解決と価値創出

**地域の将来像を共有
実践を支え、つなぐしくみ**

自然共生サイトを
地域全体の政策に位置づけ

関連分野の施策と結びつけて
共通資産として活用

多様な主体の活動を
総合的にコーディネート

北海道大学・自治体連携フォーラム

北海道大学



自治体と連携して
学際的に多様な課題
解決に取り組める

大学の総合力
(教育・研究・経営) 向上

大学の教育・研究を活用し、
地域課題の解決に協力

地域課題に関する情報提供
教育・研究のフィールド提供

自治体



自治体単独では
対応困難な課題に
多角的・専門的に
アプローチできる

課題解決につながり
北海道全体が活性化

大学・自治体連携による 教育・人材育成の推進

自治体職員向け研修
学生インターン
自治体と連携した
大学教育プログラム etc.

調査・研究を通じた 地域課題の解決

自治体に関する調査
地域課題解決につながる
研究委託
研究フィールドを求める
教員・研究者の紹介 etc.



北海道大学・自治体連携フォーラム
WEBサイト
<https://forum.ops.hokudai.ac.jp/>

参考 | 北海道大学の計画や取組の詳しい内容はこちらをご覧ください

北海道大学サステナビリティ推進機構

<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/>

HU VISION 2030

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/huvision2030/>

北海道大学の 自然共生サイト認定・OECM国際データベース登録

https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/initiative/nature_positive/

北海道大学キャンパスマスタープラン

<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/about/policy/cmp/>

生態環境保全管理方針

https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/plan/ecological_environment/

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林

<https://www.hokudaiforest.jp/about-us/uryu/>

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション長期計画

<https://www.hokudaiforest.jp/publication/ltp/>

参考 | 北海道大学の計画や取組の詳しい内容はこちらをご覧ください



北海道大学サステナビリティレポート

https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/repository/sustainability_report/

北海道大学統合報告書

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/integrated/>



参考 | 北海道大学の計画や取組の詳しい内容はこちらをご覧ください

 **CAMPUS GUIDE** 
札幌キャンパス生き物ガイド



北海道大学札幌キャンパス生き物ガイド

<日本語>
https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/library/documents/wildlife_plants_guide/

<英語>
https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/en/library/documents/wildlife_plants_guide/

  **北海道大学**
HOKKAIDO UNIVERSITY 

 **Sapporo Campus** 
Wildlife and Plants Guide



Sapporo Campus Wildlife and Plants Guide

https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/library/documents/wildlife_plants_guide/

https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/en/library/documents/wildlife_plants_guide/

  **HOKKAIDO UNIVERSITY** **150th**
HOKKAIDO UNIVERSITY 